

日看大協第 25 号
2021 年 8 月 31 日

自民党看護問題小委員会 御中

一般社団法人 日本看護系大学協議会
代表理事 山本 則子



要望書

一般社団法人日本看護系大学協議会では、新型コロナウイルス感染症影響下においても看護学教育の質を担保するため、現状を把握する調査を実施し、制限のある中での教育の質担保と社会に役立つ卒業生の安定的な輩出に向けた活動に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染拡大により看護学教育も多大な影響を受け、看護学教育では必修とされる臨地実習を計画通りに実施できない状況が継続しています。このような状況に鑑み、文部科学省では有識者会議が開催され、課題の解決に向けて大学で取り組まれることが推奨される事項および今後の大学における看護学教育への展望が示されました（新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書、令和 3 年（2021 年）6 月 8 日）。

一方、本協議会会員校を対象に 2021 年 4～5 月に実施した緊急調査の結果、2020 年度後期の実習が予定通り実施できた大学は 7.2%でした（添付資料参照）。また、有識者会議報告書で推奨された新たな取り組みを実施する上での課題も明らかになりました。

今後も新たな感染症の懸念が続くことから、新興感染症の時代に社会のニーズに対応できる看護師の育成のため、次の事項についてご検討をお願いいたします。

要望事項

1. 臨地実習の教育の質の向上に向けて：臨地以外の場で実習教育の代替とする教育の環境整備の充実への予算措置
2. 新たな感染症パンデミックを見越した人材育成に向けて：感染看護学と公衆衛生看護学の知識・技能を併せ持ち、多様な場における感染症対応ができる人材育成への予算措置

1. 臨地実習の教育の質の向上に向けて：臨地以外の場で実習教育の代替とする教育の環境整備の充実への予算措置

有識者会議報告書では、限られた実習の学修効果を最大にするために、臨地実習前の準備段階の学修や臨地以外の場での代替としての教育として、シミュレーション教育、模擬患者を用いた教育、VR（バーチャルリアリティ）を利用した実習などの教育方法が推奨されています。また、コロナ禍での実習成果は学内でのシミュレーションで十分な予習をしていたことが短い実習時間でも学修成果が高かったという報告もあります。しかし、本協議会の実態調査では、会員校におけるシミュレーション設備等の現状は「十分な設備がある」はわずか12.7%であり、「不足している」が54.2%、「シミュレーション機器のレベルに不満がある」が35.1%でした。動画教材については、「現在ある動画の内容とレベルに不満がある（44.6%）」「学生に対して数が足りない（27.1%）」であり、模擬患者の活用については「学生に対して数が足りない、全くない（40.6%）」「模擬患者のトレーニングが十分できない（40.6%）」でした。

以上のように、新たな感染症の時代を見据え看護系大学の教育環境は不十分な状況と言わざるを得ません。ICT活用体制、シミュレーション機器等の充実、模擬患者の育成等の教育環境の充実・整備が早急に求められます。看護学教育の質を充実させるために、全国の大学の教育環境整備を可能とする予算措置を要望します。

2. 新たな感染症パンデミックを見越した人材育成に向けて：感染看護学と公衆衛生看護学の知識・技能を併せ持ち、多様な場における感染症対応ができる人材育成への予算措置

新型コロナウイルス感染症だけではなく、新たな感染症パンデミックのリスクが今後も続くことが予測されます。今回の経験でわかる通り、パンデミック対応には、医療機関、高齢者等ケア施設、地域等、多様な場において感染症対応のできる人材の育成が求められ、看護学教育はこれについて重要な責務があります。

多様な現場で市民と対面し直接的なケアを担う看護職は、これまで以上の感染看護の知識と技能を、公衆衛生の知識と併せて持つことが必要です。さらに、多様な現場で高度なリーダーシップを発揮できる人材の育成も急務であり、感染対策のスペシャリスト育成のための大学院教育の充実が求められます。

新型コロナウイルス感染症下では保健師・看護師不足が課題になり、多くの看護系大学の教員等が現場を支援し、必要とされる知識のまとめと普及に尽力しました。今回の反省をふまえ、ポストコロナ時代の新たなパンデミックに備えるために、保健師・看護師・助産師の基礎教育において、感染看護を強化し、感染看護のリーダーとなる人材の育成も必要です。このような人材育成に向けて、感染看護学、災害看護学、チーム医療等を含めた知識と技術を修得させるなど教育体制の充実に加えて、潜在保健師の学びなおしの機会提供など、多くの看護系大学・大学院において感染症対応型人材育成が実施できる予算措置を要望します。

以上

資料：

新型コロナウイルス感染症影響下における看護系大学の2020年度後期の臨地実習の実施状況、および、臨地実習を補完・代替する教育設備に関する調査結果（抜粋）

一般社団法人 日本看護系大学協議会

調査対象：2021年3月31日現在の日本看護系大学協議会会員校 287 課程

調査期間：2021年4月28日～5月14日

調査方法：グーグルフォームを用いた web 調査

回答数：251 課程 / 287 課程（回収率 87.5%）

2020年度後期の臨地実習の実施状況（回答数 251 課程） 上段：課程数 下段：（%）

臨地での 実施状況	全数	設置主体別				附属（関連）病院の 有無	
		課程数 （%）	国立 38 課程	公立 45 課程	私立 166 課程	不 明	有 120 課程
通常どおり実施 できた	18 (7.2)	6 (15.8)	6 (13.3)	6 (3.6)		13 (10.8)	5 (3.8)
一部臨地で実習 を実施できた	220 (87.6)	32 (84.2)	35 (77.8)	151 (91.0)	2	102 (85.0)	118 (90.1)
実施できなかった	13 (5.2)	0	4 (8.9)	9 (5.4)		5 (4.2)	8 (6.1)

実習を「通常通り実施できた」のは僅か7.2%であり、「一部臨地で実習を実施できた」のが87.6%であった。実習の「内容を変更した」、あるいは「実習を実施できなかった理由」は、実習施設の方針によるとの回答は約52%であった。

シミュレーション設備等の現状（回答数 251 課程）複数回答

現 状	課程数	%
十分な設備がある	32	12.7
学生に対して数が足りない、全くない	136	54.2
現在のシミュレーション機器のレベルに不満がある	88	35.1
シミュレーション施設を使いこなす準備が出来ている	64	25.5
シミュレーション施設を活用した教育プログラムが十分に準備出来ていない	123	49.0

シミュレーション設備の現状は、設備の不足、特に学生数に対する数の不足、機器のレベルへの不満、シミュレーション機器を活用する教育プログラムの不十分さ等の課題が明らかになった。

動画教材の現状 (回答数 251 課程) 複数回答

現 状	課程数	%
十分な教材がある	44	17.5
学生に対して数が足りない、全くない	68	27.1
現在ある動画の内容とレベルに不満がある	112	44.6
教材を使いこなす環境が整っている	88	35.1
動画教材を活用した教育プログラムを十分に準備できない	97	38.6
模擬患者を活用した教育プログラムを十分に準備できない	156	62.2

臨地実習の補完・代替教育ツールとしての動画教材についても、現在ある動画の内容のレベルや数についての不満が明らかになった。

模擬患者を活用した教育の現状 (回答数 251 課程) 複数回答

現 状	課程数	%
十分な教材がある	17	6.8
学生に対して数が足りない、全くない	102	40.6
模擬患者のトレーニングが十分できない	102	40.6
模擬患者を活用した教育プログラムを十分に準備できない	156	62.2

模擬患者については、学生に対する数の不足、模擬患者を活用した教育プログラムを準備できない現状が明らかになった。

以上より、臨地実習を補完・代替する教育設備に関しては、看護系大学の教育環境は不十分であり、新型コロナウイルス感染症影響下において充実させる必要性が大であることが明らかになった。

以上

一般社団法人 日本看護系大学協議会：

「看護系大学生の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ワクチン接種状況等に関する調査結果報告」より抜粋